

●しゃらくかい

写楽回会

令和元年10月31日 046

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2019 Sharakukai

神無月兼題「秋の草花（含 秋の七草）」

出題：池福楼

写真俳句



1 花野風うす紅色のマスゲーム

花野風：秋の花をゆらす風



2 すすき揺れ水面に映える銀の波

すすきの穂が銀色に輝いていました。兼六園の霞ヶ池にて。



3 そよぐたび素直になりし秋桜

野辺に咲き風に揺れるコスモスは正に秋の風物詩。



4 花葛 (はなくず) の蔓延 (はびこ) り咲いて七草の



5 銀色のうねりゆたかなすすきかな

一面のすすきがいっせいに風に揺れる様が豪華でした。



6 どちらかな秋の花より食べる柿



7 鶏頭は種を鳴らしてフラメンコ



8 啄木の愛でし北上萩の花

盛岡市を流れる北上川の岸边に啄木の碑がありました。

俳句

- 1 野に一輪自生めずらし桔梗咲く
- 2 揺れあうて黄の風になり女郎花 (おみなえし)
黄色の鮮かな女郎花は野によく合いますね。
- 3 ぷっくりは桔梗のつぼみ孫の頬
- 4 街の暮萩をも揺らすビルの風
- 5 群れ咲ける赤より強し白彼岸
- 6 曼珠沙華色鮮やかに降臨す
天上に咲く花と言われる曼珠沙華。
何となく不思議な花ですね。
- 7 三万歩来て泥の靴野に桔梗



秋の七草：池福楼

- 8 秋草や遠くに聞ゆ草刈機
広い公園内で何日もかけて草を刈っていたのですが、すすき他も刈られてました。

短歌

赤き実にくぼを添えし小皿手に孫のままごと小春日の庭

北切雀



野鳥も食べないこの灌木の実は、二歳の孫の手も届くのでいいおもちゃです。

川柳

ビール旨！ノンアル飲んで気がつかず 準坊

リンス先ルーティン狂い二度洗髪 準坊

物忘れ昔からだと負け惜しみ 井上栄三

古希過ぎりや嫉妬もされぬ朝帰り 津村信之

聞き取れず隣にならって空(そら) 笑い 北川山三

バラに似て妻も花散りトゲ残し 中村利之

写真投稿

iSAMU 3点



朝鮮朝顔の実



彼岸花



鶉上戸 (ヒヨドリジョウゴ)

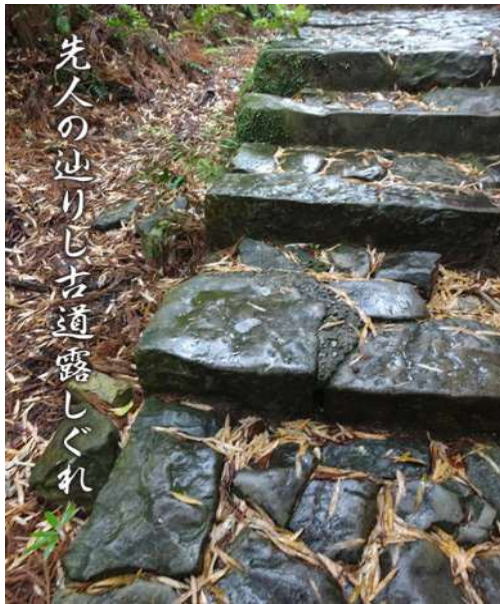
令和元年9月「道、路」(出題者: 昼寝覚) の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

- * 今月は様々な秋を楽しませていただきました(HSさん)。
- * 素晴らしい写真および俳句があり迷いました(昼寝覚)。

写真俳句 投票数：32

一席



先人の辿りし古道露しぐれ 久芽 (7票)

<< 熊野古道の石段に歴史を感じました。>>

- * しっとりとして心落ち着く情景。遠い昔の人の目に映った景色と心情まで、現在の自分を重ねて感じられているような深い一句ですね。
- * 石段の質感が素敵です。
- * 世界遺産の重みが足下に伝わる句。
- * 写真はこの句のために撮られたのですか? こんな句が作りたい!
- * あまり人気のない古道を歩きながら、昔の人の歩みに想いを寄せる感じがいいですね。
- * 熊野古道の雰囲気がよく出ているようです。
- * 歴史の重みを感じる石段ですね。



天高し大木呑みこむ道静か 千泉 (7票)

<< 写真では大木に見えない? ようですが、1人では抱えきれない大きな木です。>>

- * 写真と句が良く合ってますね。空の高さが良く出ています。
- * これほどの広さに人がいない。空の高さと静けさがよく伝わってきます。
- * 自然のスケールの大きさを写真とともに感じました。
- * どこまでも真っすぐな道。深まる秋の静寂。
- * 大木が故に道が静かなのでしょう 又それを呑み込む天。

佳作 (9月号掲載順)



秋相撲勝ったヨ花道気持ち良く 梵木

- * 写真が面白い。勝負の熱気でレンズが曇ったようでもあり、ガクンと膝をついてしまった力士の頭の中のようにも見える。「勝ったヨ」とカタカナが入るのもいいですね。
- * "勝ったヨ"がわんぱく相撲で投げ飛ばした子供のドヤ顔に通じて面白い。



秋の山三歩登りて路遠し iSAMU

<< 谷川岳頂上付近、8月号の 準坊さんの短歌、「夏帽子谷川岳の風に揺れ片手にカメラ花ウオッチング」の少し上、双耳峰付近です。>>

- * ここまでの高度は未経験。空気が薄く見えます。
- * この眺望を想像すればまた元氣も湧いてきます。
- * 重い荷物を背負い一歩ずつ登っていく登山の大変さがよく伝わってきます。



秋の古都 道いつぱいの人々 昼寝覚

<< 奈良の観光名所は人でごった返していました。>>

- * もう一度行きたい奈良です。
- * 大伽藍が大口を開けて群衆を飲み込んでいるよう。
- * 人を3度続けた強調が効いている。京都も…名だたる名勝地は混雑しますね～。



参道を色なき風の吹き抜けり 準坊

<< 参道に爽やかな秋風が吹き抜けました。(季語：色なき風)>>

- * いい季語を教えてくださいました。もの悲しさを感じさせる「秋風」ですが「色なき風」となったとたん、写真のように奥行きが無限に。
- * 色なき風という表現、いいですね。
- * 色、艶のない風…季語の世界は機微に富んでいますね。
- * 色なき風…秋の季語、いつか使いたいと思いました。
- * 神聖なる清々しい空気が漂っていますね。



母と子を奪えし道に虫の声 池福楼

<< 4月に起きた大きな事故。未だに献花が絶えない。>>

- * 季節は変われど悲しみは消えません。
- * なんともむごい事です。殆どモノクロの写真に悲しみと怒り。
- * 痛ましい事故でしたね。
- * 毎日のように交通事故のニュースは絶える事はありません。加害者も被害者も人生が変わってしまいます。

干草は巻かれてんてん風の道 北切雀

<< 初め「干草ベール」としたのですが、日本では北海道以外ではなじみがないようで差し替えました。直径1m強の干草ロールです。>>

- * 写真が少し残念。
- * 丸まった干草は郊外を車で走っているとよく見えます。横浜にはなかった素敵な景色ですね。
- * 見えない風が干草ロールで作られた道の間を通っていく…、インスピレーションがすばらしく、リズミカル！風が喜んで遊んでいるようで、きっと音楽が奏でられているにちがいない、想像して聴きましょう。

* “てんてん”が面白い。巻き取られた干草が大地に点在する車輪のように風の道に転がる。枯草の匂いに溢れて。





裏磐梯デコ平湿原の散策路
 << どこまでも木道が続いていました。>>
 (撮影：昼寝覚)

一席

秋茜付かず離れず田圃道 池福楼（7票）

- * 赤とんぼのホーバリングは飛ぶ先を考えてるのかな。
- * トンボは日本の秋ならではなのかこちらでは見ないので嬉しくなって秋茜の句を取りました。
- * リズムがあって、懐かしく感じました。
- * 田舎の道を歩いているとよく出くわす光景ですね。
- * こんな道ずれいいですね～。

佳作7句（令和元年9月号掲載順）

1 名月やアウトバーンを友へ疾く 一枝

<< 中秋の満月を見ながら正に十何年振りで、フランクフルトからボンへ長距離バスで向かっている車中で詠みました。>>

- * 美しい月の下、早く友人に会いたい気持ちを風のように運んでくれる、アウトバーンが効いています。
- * 「疾く」も効いていますが、なんとといっても旧友へ走る心と身体のスピード感を、一言で表現しているのが「アウトバーン」。言葉の経済効率がいい、といつき先生が言いそうです。
- * 旧友に会いたい気持ちを名月が後押しする。

2 かなかなの声に送らる帰り道 準坊

<< 夕暮れが近くなると鳴き出す蝸。秋も始まりました。>>

- * 周りも静かで、ともすると寂しい感じのする夕暮れ時の道でしょうか。ひぐらしの鳴き声が寄り添ってくれているようで優しい温かさが感じられますね。
- * 大好きな蝸の声。その声を満ち足りた思いで帰宅されるのでしょうか。余韻溢れる句です。
- * 季節が移る物悲しさを感じます。
- * 夏の終わりの哀愁を感じる句です。

3 陽を返し小茄子つややか道の駅 北切雀

- * 獲れたての茄子、買って帰りたくなりますね。
- * 産直そのものの新鮮野菜が目浮かびます。
- * 情景が見えるわかりやすい句だと思いました。
- * 小茄子が陽にあたり艶やかさが余計に増しているのでしょうか。
- * 新鮮な野菜が並んでいる様子が目に浮かびます。
- * 新鮮な茄子……わたしは今年無性に茄子が食べたくてたまらずしぎ焼き味噌がらめばかり作ってました。

5 道端で羽ばたき絶ゆる秋のセミ 千泉

<< 今年は何度も見た光景ですが、中にはしばらくして飛立って行きました。>>

- * 短命な蝉の最期を見届けたのですね。
- * 季節の移り変わり、命のはかなさを感じました。
- * 蝉は短い生涯を懸命に生きたのでしょうか。

6 坂道を犬より早く歩く秋 梵木

- * やっと涼しくなって、散歩のスピードが上がる秋。ワンちゃんは「やれやれ」でしょうか？
- * 老犬も寄る年波に勝てずか。

7 行列を逸れて脇道蟻二匹 久芽

<< 蟻の行列を見ていると数匹が行列を逸れて。甘い匂いがあるのかな？ >>

- * 流れに逆らう二匹ですか。共通の動機はなんだったのでしょうか。
- * 小さな命を良く観察しています。人もときにレールに敷かれた道を外れたいと思う。
- * 下五で「ああ蟻だったのか」という結末になるのが好きです。
- * どの世界にも、皆と行動を共にしないのがいますね。

8 落ち葉踏む優しき道を二人して 昼寝覚

<< 秩父荒川沿いの遊歩道、落ち葉で大変柔らかく、足に優しい道でした。 >>

- * 優しい道を歩く二人がどんな関係なのかわからないけど、落ち葉の上を歩く感覚とともにほっこりした気分になりました。
- * 1年のサイクルを完了して散り落ちた葉。土に還って春の発芽へ。ゆっくりと足を進めるお二人も豊かな年輪を重ねてらっしゃるのでしょう。
- * ふかふかと歩き心地の良い道。横にベストパートナーがいるから尚更に。
- * 落ち葉の上を歩くのは足に優しいですね。

短歌

秋の陽を
浴びてたおやか青もみじ
紅に染まるを
待ち焦がれつつ

準坊

<< 紅葉を待ち侘びています。 >>



- * 青葉も紅葉も美しいモミジには桜よりも日本を感じます。
- * 秋の京都・詩仙堂の書院から眺める庭園の趣。万葉集もかくやと思わせる雅が素晴らしい。

川柳

点滅に駆け渡れ無い青信号 準坊

<< 足が！急がずに次の青信号を待ちましょう。 >>

- * 渡れると思ってひやっとした事は何度もあるある。

確かめて着たのにセーター後ろ前 北切雀

<< 最近はこれが多くて・・・ >>

- * 前後ろチェックしてきたはずが着心地悪し、ってこと私にも何回もありますわ…。
川柳、どれも好きだわ～。
- * 後ろ前どころか表裏さえ間違える。

写真投稿

読者 J A さん

フィヨルド（ノルウェー上空）

<< 去年の12月、羽田からロンドンへロンドン行の機内からの写真です。ロシア上空は通過した後だろうなと思い、座席の地図画面を開いたらノルウェーの北の方でした。>>

- * 見慣れたV構図のフィヨルドではなく俯瞰写真というのが新鮮。眼全開、息をのむ瞬間ですね（北切雀）。
- * 美しい北欧の鳥瞰ですね。11月の兼題（空の旅）に使いたい位です。

iSAMU 3点

- * お花の写真もどれもすてき（FSさん）。

**高隈杜鵑**（タカクマホトトギス）**木槿**（ムクゲ）**韓国の国花****臭木**（クサギ）**の実**

- * 作者さん、読者さん、いつもご協力ありがとうございます。多々ある不備、不手際のお見逃しも感謝です。
- * 霜月11月は兼題は読者JAさんから「空の旅」、師走12月は梵木さんから「クリスマス」と出ています。
- * 神無月10月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳も大歓迎です。
- * 神無月10月への投票、霜月11月号作品への投稿の締め切りはともに11月20日です。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」（五十音順）

池福楼、iSAMU、一枝、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

写楽句会 連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com

© 2019 Sharakukai

筆責：北切雀

校正：準坊、池福楼

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

または

[四季の森空間 http://isamusouma.web.fc2.com/](http://isamusouma.web.fc2.com/)

